

### 第3回「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」検討委員会議事要旨

- 1 日 時 平成26年12月18日（木） 13時30分から15時30分まで
- 2 場 所 広島県広島市中区大手町一丁目5-3  
サテライトキャンパスひろしま 502大講義室
- 3 出席委員 牛山座長，新井委員，植野委員，宇根委員，大野委員，奥委員，坂田委員，  
滝澤委員（代理出席），瀧本委員，田中委員，東委員
- 4 議 事 (1) 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の取組案について  
(2) 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動条例」（仮称）について
- 5 会議内容

#### 議事（1）「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の取組案について

- ・ 協力する企業にとってもメリットになるようなことをしないと運動は続かない。例えば、小売店舗でレジの横に自主防災組織が推奨する防災グッズを置いてもらい、それを買ってもらったら企業にもメリットがある。
- ・ 伝える方が“こういう状況にはこういう指示を出す”，聞く方は“こういう指示の時にはこう動く”のような双方向からの意見を取り込んだ防災ハンドブックがあると良い。
- ・ 専門知識がある人に講師に来てもらい、子どもを対象に、授業で防災教育を実施してはどうか。学んだ内容を家庭に持ち帰り、家族で話をしてもらえば、さらに広まる。
- ・ 従来の、みんな他人事で地域は安全だという考え方は反省すべき点。資料に記載されている取組をきちんと実施していきたい。
- ・ 呉市の中学校が幼稚園や小学校も巻き込んで大規模な訓練を行った。中学生，高校生，大学生は力も行動力もあるので，このような取組が全県に広がれば良い。
- ・ 自主防災組織，企業，自治体などで災害対応の中心になる人がいるはずである。その人に研修を受けてもらう必要がある。防災教育を受けてもらう必要がある人に受けもらえる環境を作る必要がある。
- ・ 人を集めるのが大変であれば，人が集まっているところで防災教室を実施すればいい。大学は意識が高い学生もいるので，大学や教育機関を巻き込んだ防災イベントを行うのが良い。
- ・ 入学式の説明会時に全員に災害情報メールを登録してもらうなど，物事の最初に行ってもらうことが効果的。
- ・ これまでの検討でこの場で考えられることは資料に反映されている。それが効果的かどうかは行ってみないとわからない。大切なことは，それが本当に効果的だったのかを把握して改善する仕組みを作ること。
- ・ 取組の訴求力には，取組を実施する側の熱心さが必要。どこに行っても働き掛けのポスターがあるくらいの本気度や戦術がないといけない。

- ・ 防災だけでイベントをするのではなく、ほかのイベントと組み合わせると良い。自治会でとんど焼きをする際に消火訓練や炊き出しを実施したり、地域の運動会で搬送競技を行えば、3世代で防災訓練ができる。
- ・ 県民運動につなげるためには、「県民の方、何か1つできませんか」のような“防災1つ運動”を考えて、何かキャラクターを作って1年間やってみる。参加してもらえればワッペンを渡すなどでもいい。
- ・ ちょっとしたことでもいいので、できることを用意する。意識せずに防災情報に接することができるようにする。興味がない人も全く防災に興味がないわけでない。あまり肩に力を入れない取組も準備しておくが良い。
- ・ 昼間、大人が都市に働きに出ている場合、地元の防災活動はその家族が担うことになる。都市型の防災と地方の防災への取組は異なると思う。
- ・ 人を集めて何かをする場合、集めた人の出番を想定しておくことが必要。短期的なモチベーションになるものを踏まえて仕組みを設計していく。

#### 議事（2）「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動条例（仮称）」について

- ・ 県民あるいは自主防災組織等がどういう行動をするかを明記するのは両刃の刃ではないか。状況に応じて対応は異なる。具体的に書きすぎると独り歩きしてしまう。
- ・ いろいろな人の意見を聞き、チェックを受けてほしい。